

株主のみなさまへ 中間期のご報告

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日

経営理念

革新的価値の創造
未来と世界への貢献
環境・社会との共生

存在意義(パーパス)

森林を健全に育て、
その森林資源を活かした製品を創造し、
社会に届けることで、
希望あふれる地球の未来の実現に向け、
時代を動かしていく

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年3月期中間連結会計期間(2024年4月1日から2024年9月30日、以下、「中間期」)の概要をご報告申し上げます。

当中間期の業績について

当中間期の売上高は、Walki社の連結子会社化やサイクロンの影響により停止していたニュージーランドのPan Pac社の復旧が進んだことに加え、円安による海外子会社の円貨換算差もあり、前中間期を758億円(8.9%)上回る9,229億円となりました。

営業利益は、価格修正やコストダウンの取り組みを行っていますが、主に物流費や人件費等のコスト上昇により、前中間期を16億円(△4.1%)下回る372億円となりました。経常利益は、外債建債権債務の評価替えによる為替差益の減少等により、前中間期を114億円(△22.5%)下回る394億円となりました。税金等調整前中間純利益は、政策保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益が発生したものの、経常利益の減少等により、前中間期を76億円(△15.2%)下回る424億円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は、前中間期を74億円(△23.4%)下回る242億円となりました。

当社グループの海外売上高比率については前中間期を6.5ポイント上回る40.9%となりました。

中間配当について

配当につきましては、長期的な企業価値向上に向けた成長投資に備えるための内部留保を勘案しつつ、1株当たりの年間配当24円を下限として当面は減配を実施せず収益力に応じた安定的な配当を継続することを基本とし、配当性向30%を目安に実施することとしています。

この配当方針に基づき、当中間期の配当は、1株当たり12円と決定させていただきました。当期の年間配当は、当中間期の12円と合わせ1株当たり24円を予定しています。

中間期の連結業績ハイライト

売上高	9,229億円	前年同期比 8.9%増	↑
営業利益	372億円	前年同期比 4.1%減	↓
経常利益	394億円	前年同期比 22.5%減	↓
親会社株主に帰属 する中間純利益	242億円	前年同期比 23.4%減	↓



王子ホールディングス株式会社
代表取締役社長

磯野 裕之

2024年11月

中間期のセグメント別の営業の状況

生活産業資材

段ボール原紙・加工、白板紙・紙器、包装用紙・製袋、家庭紙、紙おむつ

売上高	4,183億円	前年同期比 4.8%増	構成比 (%)	38.5
営業利益	38億円	前年同期比 33.0%減	構成比 (%)	10.2



デジタル・フレクソ印刷段ボール



王子ネピア製品群

国内事業では、白板紙や包装用紙は需要回復により、売上高は前中間期に対し増収となりました。また、紙おむつの売上高は、子供用おむつは2024年9月をもって国内事業から撤退することを受け減収となりましたが、大人用おむつは新規顧客獲得で販売数量増加により、前中間期に対し増収となりました。

海外事業では、段ボール原紙は為替影響等により、段ボールは東南アジアにおける更なる事業拡大の一環としてベトナムで新工場を立ち上げた影響等により、売上高は前中間期に対し増収となりました。紙おむつは、マレーシアでの拡販により、売上高は前中間期に対し増収となりました。

機能材

特殊紙、感熱紙、粘着、フィルム

売上高	1,215億円	前年同期比 6.7%増	構成比 (%)	11.2
営業利益	67億円	前年同期比 53.3%増	構成比 (%)	18.2



紙製農業用マルチシート



非フッ素耐油紙

国内事業では、特殊紙は戦略商品である通販向けヒートシール紙、非フッ素耐油紙等の拡販や、半導体関連の需要回復により、売上高は前中間期に対し増収となりました。感熱紙は需要回復により、売上高は前中間期に対し増収となりました。

海外事業では、緩やかな需要回復が見られる地域もあり、売上高は前中間期に対し増収となりました。

資源環境ビジネス

パルプ、エネルギー、植林・木材加工

売上高	2,023億円	前年同期比 12.0%増	構成比 (%)	18.6
営業利益	175億円	前年同期比 6.5%減	構成比 (%)	47.4



ウルグアイ植林地



復旧後のPan Pac社工場

国内事業では、パルプ事業は溶解パルプ市況の良化、円安影響により増収となりましたが、エネルギー事業において販売電力量が減少し、売上高は前中間期に対し減収となりました。

海外事業では、サイクロンの影響により停止していたニュージーランドのPan Pac社の復旧が進んだことにより、売上高は前中間期に対し増収となりました。

印刷情報メディア

新聞用紙、印刷・出版・情報用紙

売上高	1,462億円	前年同期比 1.9%減	構成比 (%)	13.5
営業利益	41億円	前年同期比 42.5%減	構成比 (%)	11.1



新聞用紙



出版用紙

国内事業では、新聞用紙、印刷・情報用紙は需要の減少傾向が継続しており、売上高は前中間期に対し減収となりました。

海外事業では、江蘇王子製紙において、生産効率の向上に伴う生産量の増加により、売上高は前中間期に対し増収となりました。

その他

商事、環境配慮型パッケージング、物流、エンジニアリング、不動産、液体紙容器 他

売上高	1,982億円	前年同期比 27.6%増	構成比 (%)	18.2	営業利益	48億円	前年同期比 40.9%増	構成比 (%)	13.1
-----	---------	-----------------	---------	------	------	------	-----------------	---------	------

(注)セグメント別の売上高及び営業利益構成比(%)は、調整額(内部取引に関わる調整額等)を除いて計算しています。

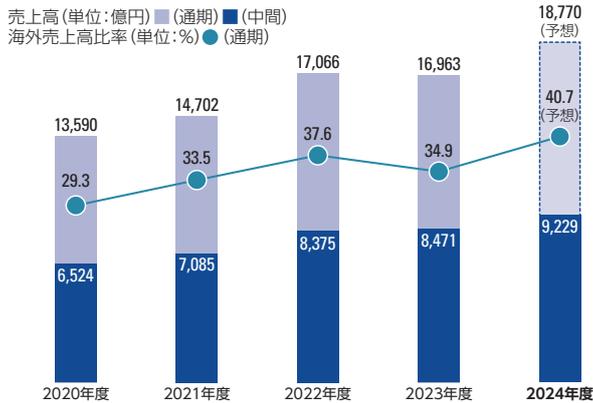
財務データ概況

財産及び損益の状況の推移

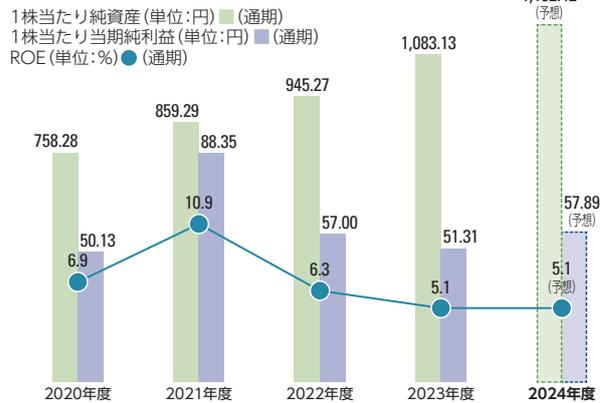
区分		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度(予想)
売上高	(百万円)	1,358,985	1,470,161	1,706,641	1,696,268	1,877,000
営業利益	(百万円)	84,793	120,119	84,818	72,600	70,000
経常利益	(百万円)	83,061	135,100	95,008	85,987	73,000
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	49,635	87,509	56,483	50,812	57,000
1株当たり当期純利益	(円)	50.13	88.35	57.00	51.31	57.89
1株当たり純資産	(円)	758.28	859.29	945.27	1,083.13	1,182.42

(注) 2024年度通期の予想は第2四半期(中間期)決算短信発表(2024年11月7日)時点のものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

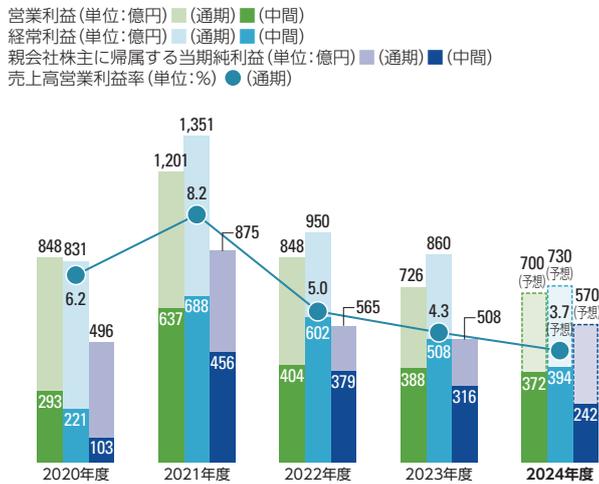
売上高・海外売上高比率



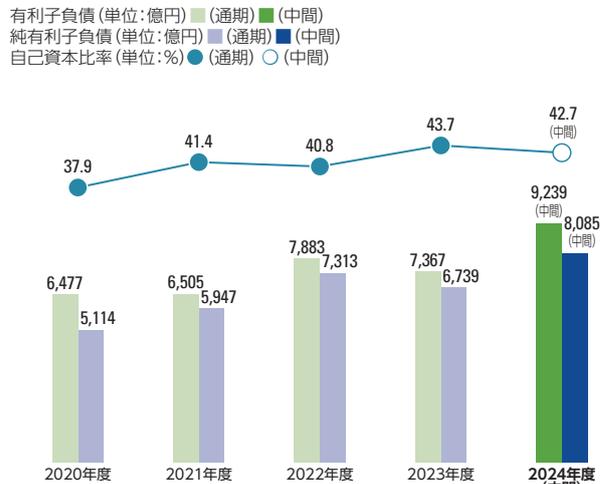
1株当たり純資産・1株当たり当期純利益・ROE



営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益・売上高営業利益率

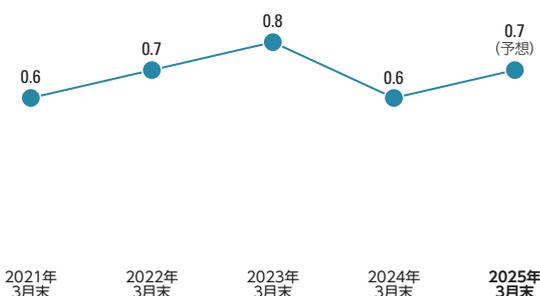


有利子負債・純有利子負債・自己資本比率



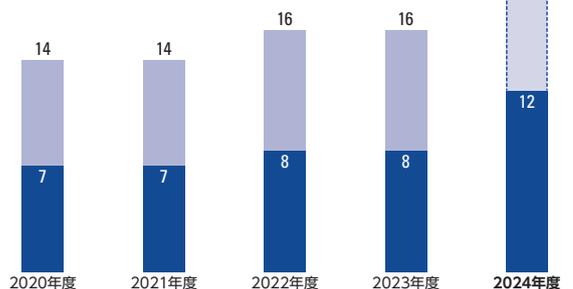
ネットD/Eレシオ(単位:倍)

ネットD/Eレシオ = 純有利子負債 / 期末純資産



1株当たり配当金(単位:円)

(通期) (中間)



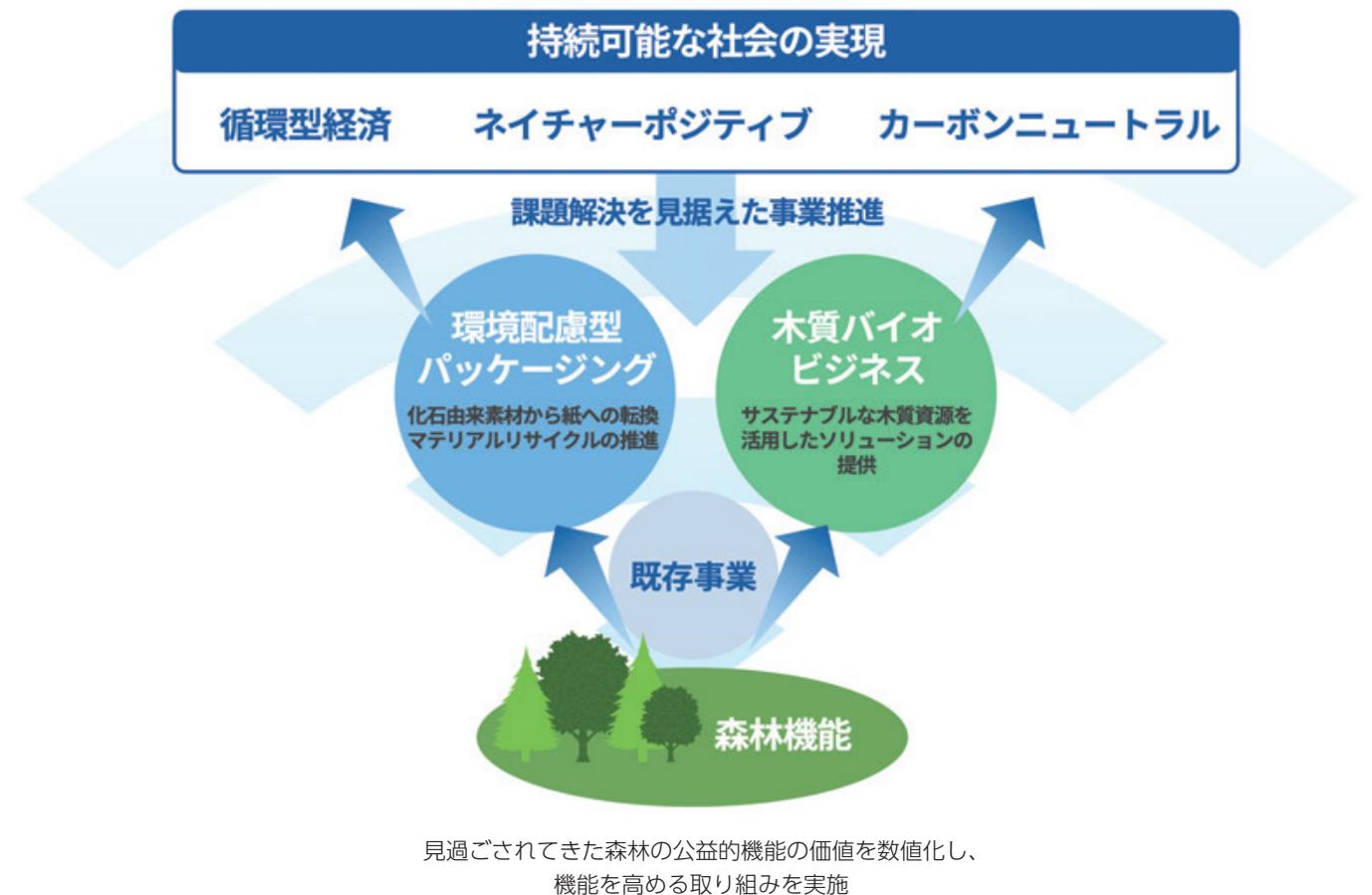
王子グループが目指す姿 長期ビジョン

当社は2030年に向けた長期ビジョンとして、「成長から進化へ」というグループ基本方針を掲げ、主力事業の持続的な改善を図ると同時に、新しい領域への展開を図り、企業価値の向上と持続的な成長、および経営理念の実現に向けて取り組んでいます。また、「環境行動目標2030」や「連結売上高2.5兆円以上」の達成を2030年までの目標に設定しています。

近年では、世界的な環境意識の高まりを背景にサステナブルな素材が注目を集めている中、特にパッケージング分野での紙・板紙の需要の伸びが期待されています。事業の核である森林をベースに、既存事業の枠を超え、環境配慮型パッケージング、そしてさらに中長期を見据えては、木質バイオビジネスを次世代の中核ビジネスとして着実に育成していきます。

循環型経済やネイチャーポジティブ、カーボンニュートラルを実現させることの重要性はますます高まっており、森林資源に根付いた事業運営のもと、課題解決を見据えた事業を推進していきます。

持続的な成長に向けた取り組み



「環境行動目標2030の達成」

- 気候変動問題への対応
- 豊かな森づくりと資源循環
- 生態系への配慮
- ステークホルダーとの信頼関係の醸成

連結売上高2.5兆円以上

対2021年度増加額

- 新製品・環境対応製品開発による拡大 +3,000億円
- M&Aによる拡大 +3,000億円
- 戦略投資による拡大 +4,000億円

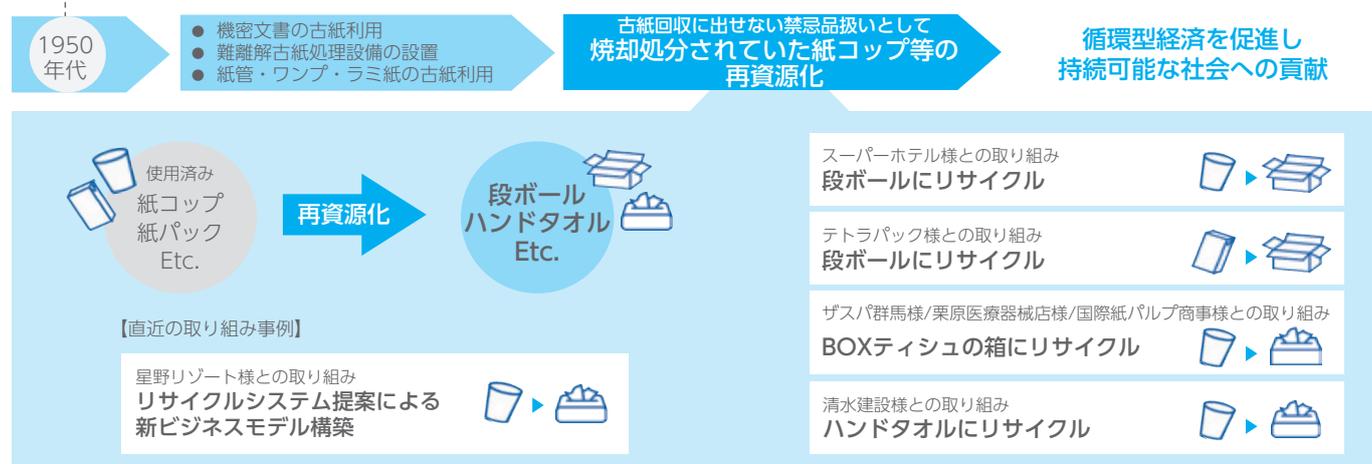
経営理念の実現

環境配慮型パッケージングの早期拡大 脱プラスチック提供に向けた取り組み



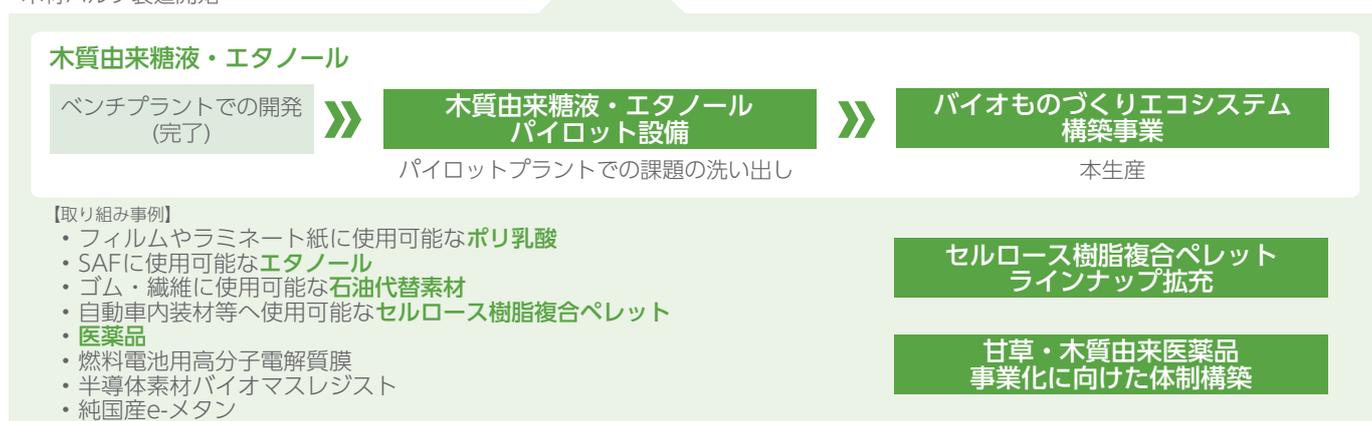
マテリアルリサイクルの取り組み

継続してさまざまな種類の古紙の資源化に取り組み、高い古紙利用率を維持。さらなる古紙利用率向上を目指した取り組みを実施。
 古紙を原料とした紙生産開始



木質バイオビジネス

カーボンニュートラルな世界へ向けた取り組み



持続的な成長に向けた森林機能向上への取り組み これまでも、そして、これからも Nature Positive 経営

当社グループは、100年以上の長きにわたり、再生可能な森林資源を育て、健全な森づくり、持続可能な森林経営を行い、森林資源に根付いた**ネイチャーポジティブ経営**を継続しています。

当社グループの植林事業は、1893年ごろに天竜川流域（静岡県）で始まり、1937年には王子造林を設立し社有林の充実と育成により再利用循環型を指向しました。地球環境問題が注目される以前の1930年代、当時の社長・藤原銀次郎翁は、「**木を使うものは、木を植える義務がある**」と説き、この揺るぎない理念のもと、森林資源に根付いた事業運営を行っています。



王子造林

森林の健全性、生物多様性を向上する（**ネイチャーポジティブ**）活動は、自然に依存する当社グループの事業活動の持続可能性を向上するだけでなく、地域社会の生活・健康を守り、世界のネイチャーポジティブに貢献します。

1914年には約1,700ヘクタール（ha）であった王子の森も、現在では、海外に約44.7万ha、国内に約18.8万haと、あわせて約63.5万ha、東京都の面積の約3倍の森林を保有・管理するまでに至っています。

引き続き、環境および地域社会に配慮した持続可能な森林経営を実践していくとともに、希少動物の保護・育成、生態系の維持・回復などに取り組んでいきます。森とともに、地球のために、これまでも、そして、これからも、森林資源に根付いた**ネイチャーポジティブ経営**を継続していきます。



森林の公益的価値

森林は、木材の生産に役立つばかりではなく、水を貯え、洪水を防ぎ、水をきれいにする役割。森林が根を張り土砂の流出や崩壊を防ぐ役割。二酸化炭素（CO₂）の吸収・固定や酸素を供給する役割。多種多様な生物を育む役割。さらには、わたしたち人間に癒しをあたえるといった多様な価値を有しています。

水源涵養

森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水、渇水を防ぎ、さらにその過程で水質を浄化する役割

生物多様性の保全

森林が果たしている野生鳥獣の生息の場としての役割



土砂流出・崩壊防止

森林の下層植生や落葉落枝が地表の浸食を抑制する役割
森林が根系を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ役割

大気保全

森林がその成長の過程でCO₂を吸収し、酸素を供給している役割

保健休養

森林が人にやすらぎを与え、余暇を過ごす場として果たしている役割

王子の森の経済的価値(国内)と見える化プロジェクト

森林・土壌・水・大気・生物資源などの自然資本を経済価値としてとらえた自然資本会計の制度化の動きが始まっています。当社が、林野庁「森林の公益的機能の評価額について」の手法をもとに、国内の王子の森(約18.8万ha)について、経済価値を算出したところ、価値総額が年間約5,500億円という結果となりました。

北海道の猿払山林では、「王子の森の価値見える化プロジェクト」を始動し、北海道大学の研究者と共同で重要な5要素(CO₂、生物多様性、土壌、栄養、水)の価値の可視化と自然再生プロジェクトを実施中です。さらに、海外のスタートアップ企業と共同で音声センサー、ドローン、カメラ、環境DNA等の最新技術を複数組み合わせることで様々な種類の動植物のデータを解析し、猿払の王子の森の生物多様性を測定するプロジェクトを実施しています。



**国内王子の森の
経済価値
年間約5,500億円**

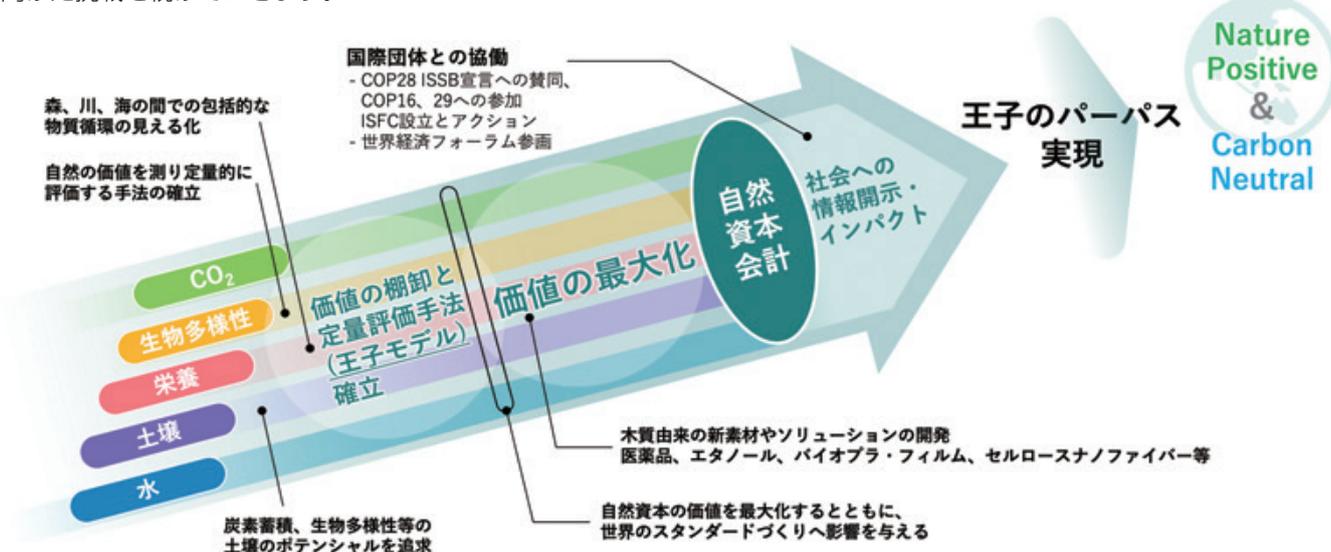
うち、土砂流出・崩壊防止	2,750億円/年
うち、水源涵養	2,040億円/年
うち、生物多様性保全	430億円/年
うち、大気保全・保健休養	280億円/年

猿払における王子の森の価値見える化プロジェクト



王子の森でのチャレンジ 一次の150年にむけて

気候変動と自然資本の変化は相互に影響するため、ネイチャーポジティブとカーボンニュートラル両方の実現を目指し、自然資本会計の時代へ向けたアクションを実行していくとともに、パーパスの実現を通じて、希望あふれる地球の未来の実現に向けた挑戦を続けていきます。



インフォメーション

株主優待のご案内

株主の皆様からの日頃のご支援に感謝し、下記の2つの株主優待制度を導入しています。

詳しくは、当社ホームページをご覧ください。 <https://investor.ojiholdings.co.jp/ja/ir/stock/benefit.html>



内容	基準日	株式数
当社グループ製品カタログギフト(王子ネピア カタログギフト)	毎年3月末	1,000株以上・半年以上継続保有
植林活動応援イベント『Stop地球温暖化 いっしょに育む“森の力”』	毎年9月末	5,000株以上保有

植林活動応援イベントの状況(2024年5月から8月実施)

「王子の森」へ株主様からのメッセージをお届け



「王子の森」で株主様向け植樹会を開催



王子ネピアのご案内

ネピアは、人々の暮らしと環境に寄り添う企業であることを目指し、「環境価値」と「生活・感性価値」を高める製品開発と価値創造を推進しています。



プレミアムソフトティッシュ



プレミアムソフトトイレットロール



鼻セレブティッシュ



からだ想いのトイレットロール



ウェットモ



除菌アルコールタイプ 50枚

「人と地球に、ここちいい。」新しいふだんを追求します。

製品の詳細につきましては、王子ネピアのホームページをご覧ください。

<https://www.nepia.co.jp/>



新テレビCM 放映のお知らせ

「おどろきを作る、時代を動かす、命をまもる」と題し、2023年10月よりCMを展開してきましたが、本年7月より第2弾となる新CM3本を放映しています。

新CMは、前シリーズに続き、モデル・タレントのトラウデン直美さんを起用し、当社の苫小牧山林の広大で美しい森林の映像を背景に、当社グループの取り組みのご紹介と、新たな技術や製品による将来の広がりを醸成する構成となっています。

O:おどろきを作る篇

脱炭素時代に向けた新たな取り組みを紹介



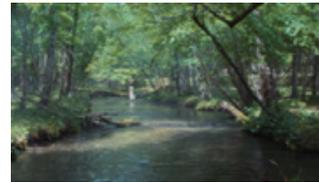
J:時代を動かす篇

脱プラスチック社会を目指す取り組みを紹介



I:命をまもる篇

森林がもつ多面的な機能を紹介



会社概要 (2024年9月30日現在)

会社名 王子ホールディングス株式会社
本社所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目7番5号
創業 1873年(明治6年)2月12日
設立 1949年(昭和24年)8月1日
資本金 103,880百万円
連結従業員 39,764名
証券コード 3861
ホームページ <https://www.ojiholdings.co.jp/>



株式事務についてのご案内

株主名簿管理人及び 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

